

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																												
沖縄リゾートアンドスポーツ専門学校		令和2年3月23日		萩原 知子		〒 900-0011 (住所) 沖縄県那覇市上之屋1-3-13 (電話) 098-851-3156																												
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																												
学校法人三幸学園		昭和60年3月8日		屋間 一彦		〒 113-0033 (住所) 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641																												
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																											
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツトレーナー科				令和3年度文部科学省認定	—																											
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき、スポーツ業界に従事しようとする者に必要な実践的かつ専門的な知識、技能を教授することによって、明日のスポーツ業界を担う人材を養成することを目的とする。																																	
認定年月日	令和2年3月23日																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	単位																										
	2							62	57	10	6	0	19																					
生徒総定員		生徒実員		留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数																								
160人		132人		0人		7人		17人		28人																								
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:シラバスに定められた基準に基づき、100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。 評価の方法:試験、レポート、履修状況等を総合的に勘案して行う。																												
長期休み	■学年始:4月1日～4月11日 ■夏季:7月16日～8月28日 ■冬季:12月20日～1月11日 ■学年末:2月16日～3月31日			卒業・進級条件		本校に修業年限以上在学し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示すとおりとする。																												
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任制を取り、心身の健康問題、学校生活上の諸問題について早期発見・対応できるよう、個人面談等を実施している。また出席の状況等について、必要に応じて適宜保護者とも共有を図り、連携体制を整えている。			課外活動		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 ボランティア活動、各学校行事実行委員  ■サークル活動: 無																												
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 総合スポーツクラブ、フィットネスクラブ、パーソナルトレーニングジム、社会人スポーツチーム、接骨院・整形外科などのスポーツ・健康業界			主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																												
	■就職指導内容 身だしなみ指導・履歴書添削・面接指導・ビジネス文書					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JATI認定トレーニング指導者</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>フィットネスクラブマネジメント技能検定3級</td> <td>③</td> <td>23人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>HITA認定 リラクゼーションセラピスト</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>17人</td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JATI認定トレーニング指導者	③	17人	8人	健康運動実践指導者	③	6人	3人	フィットネスクラブマネジメント技能検定3級	③	23人	14人	HITA認定 リラクゼーションセラピスト	③	14人	11人	日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者	③	17人	17人
	資格・検定名	種別	受験者数			合格者数																												
	JATI認定トレーニング指導者	③	17人			8人																												
	健康運動実践指導者	③	6人			3人																												
フィットネスクラブマネジメント技能検定3級	③	23人	14人																															
HITA認定 リラクゼーションセラピスト	③	14人	11人																															
日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者	③	17人	17人																															
■卒業者数 26 人			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。																															
■就職希望者数 25 人			①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの																															
■就職者数 25 人			②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの																															
■就職率 100 %			③その他(民間検定等)																															
■卒業者に占める就職者の割合			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																															
: 96 %																																		
■その他																																		
・進学者数: 1人																																		
(令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																																		
中途退学の現状	■中途退学者 11 名		■中退率 11 %																															
	令和3年4月1日時点において、在学者104名 (令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者93名 (令和4年3月31日卒業者を含む)																																	
	■中途退学の主な理由 進路変更・経済的問題・心身的問題																																	
■中退防止・中退者支援のための取組 ・入学前に新入生、保護者に対して、学校生活や授業就職についての説明会を実施。 ・出席状況や生徒状況に応じて、保護者連絡を行ない家庭と学校の連携を深めている。 ・担任や役職者が早期に面談を実施。																																		

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入</p> <p>特待生制度：面接試験等の結果に応じて年間5～50万円の授業料免除。三幸学園給付奨学金&amp;学費納入制度：「給付奨学金」&amp;「授業料減免」制度を活用し入学手続時に必要なのは入学金相当金10万円のみで対応できる制度。</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体： 0 受審年月： 0 評価結果を掲載したホームページURL 0</p>
当該学科のホームページURL	<p><a href="https://www.sanko.ac.jp/okinawa-sports/course/trainer/">https://www.sanko.ac.jp/okinawa-sports/course/trainer/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質・能力の育成に必要な研修に関する事項等

またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を深め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして位置づけ、学校長の下に置くこととする。

具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程およびシラバスの改善素案が作成され、スポーツ分野専門委員会(別紙組織図:各専門委員会)にて提案される。

提案に基づき、スポーツ分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
磯谷 貴之	日本トレーニング指導者協会九州沖縄支部 委員	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
高橋 百合子	スポーツクラブルネサンスライカム24支配人	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)前年度の同企業前任者より引継ぎ	③
小川 大輔	沖縄リゾートアンドスポーツ専門学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	—
吉沢 美香	沖縄リゾートアンドスポーツ専門学校 教務課長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	—
笠原 美紀	沖縄リゾートアンドスポーツ専門学校 教務主任	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	—
菅井 悠斗	沖縄リゾートアンドスポーツ専門学校 スポーツトレーナー科チーフ	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、1月)

(開催日時(実績))

令和3年11月30日 18:00～19:15

令和4年8月22日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

資格・検定を取得することで学んできた知識や技術の証明となり、また就職活動や、キャリアの幅も広がることから、より取得率・合格率の向上させられる授業展開を実施頂きたいとご意見を頂いたことなどを踏まえて、令和4年度より資格・検定のリファレンスガイドを作成し、各授業教科において関連する資格を明確化し、1年生の授業から計画的に対策や動機付けをできるようにカリキュラム、シラバスを見直し反映した。栄養関係の授業の充実に関して頂いたご意見に関しては、令和5年度からのカリキュラム企画時に、どのように反映するかを検討する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
 実践的な指導を施すにあたり、スポーツ業界における実践的かつ専門的な知識・技術およびその指導力が得られる企業等を選定し、実践計画の作成から連携を図る。スポーツ業界の求める人材要件に沿った計画、および評価基準・方法を設定し、企業等からのフィードバックに基づいた成績評価を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容  
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記  
 ■授業内容について:連携企業の職員の方に本校のトレーニングルームにて現場を想定した授業を実施頂き、スポーツ業界に必要なマシントレーニング、ウエイトトレーニングにおける技術・指導テクニックを習得する  
 ■評価について:連携企業による項目別の評価をもとに成績付けを行い、成績認定を行うものとする

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
トレーニング実践と指導Ⅰ	マシントレーニング、フリーウエイトトレーニングにおける適切なデモンストレーション技能を習得し、指導テクニックを身につける。	株式会社ヘルスケアグループファルコン
トレーニング実践と指導Ⅱ	マシントレーニング、フリーウエイトトレーニングにおける適切なデモンストレーション技能を習得し、指導テクニックを身につける。	株式会社ヘルスケアグループファルコン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
 実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日のスポーツ業界を担う人材を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、「研修等に係る諸規程」に基づき、毎年計画的に以下の研修を実施し、教員に研修を受けさせることを基本方針とする。  
 ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修  
 ・企業等から講師を招いた指導力の修得・向上のための研修

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 専門教育力、キャリア指導力向上セミナー  
 期間: 令和3年8月20日(金)  
 内容: ポストコロナを踏まえての専門教育、キャリア指導のポイントを学ぶ。  
 連携企業等: 株式会社クラブビジネスジャパン  
 対象: 担任教員6名

研修名: スポーツ健康業界の理解向上セミナー  
 期間: 令和3年度8月20日(金)  
 内容: カオスマップを用いて、スポーツ健康業界の動向を学ぶ。  
 連携企業等: 株式会社Aesta  
 対象: 担任教員6名

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 巻き込み力向上研修  
 期間: 令和3年7月5日(月)～7月6日(火)  
 内容: 複数の生徒、関係者と学校創りや、仕事を進めていくために必要な考え方と手法を学ぶ。  
 連携企業等: 株式会社ウィルシード  
 対象: 担任教員2名

研修名: マネージメントの原理、原則、ケースワーク研修  
 期間: 令和3年7月5日(月)～7月6日(火)  
 内容: WEB学習と集合型研修を組み合わせ、マネージメントの原理原則を学ぶとともに、職場実践による経験学習を通じてマネージメントを学ぶ。  
 連携企業等: 株式会社リクルートマネジメントソリューションズ  
 対象: 担任教員1名

研修名: キャリアデザインセミナー  
 期間: 令和3年7月15日(木)～7月16日(金)  
 内容: 今後の自分と社会の可能性を想像し教員という仕事や学校に対するエンゲージメントを高める。自己の視野を拡大する。  
 連携企業等: 株式会社ウィルシード  
 対象: 担任教員1名

研修名: 問題解決力向上研修  
 期間: 令和3年10月13日(水)～10月14日(木)  
 内容: 組織視点を持ち、解決すべき問題を考える。自分の成果だけでなく、組織の成果を出す視点を学ぶ。  
 連携企業等: 株式会社ウィルシード  
 対象: 担任教員1名

<b>(3) 研修等の計画</b>	
<b>① 専攻分野における実務に関する研修等</b>	
研修名: 沖縄県におけるスポーツチーム、スポーツ業界の現状と展望	連携企業等: 琉球フットボール株式会社
期間: 令和4年7月13日(水)	対象: 担任教員6名
内容: スポーツチーム、スポーツ業界の現状、今後の展望について学ぶ。	
研修名: 業界動向を踏まえた、最新教育ツールの活用方法	連携企業等: 株式会社CODE7
期間: 令和4年8月19日(金)	対象: 担任教員6名
内容: 業界動向を踏まえた、最新教育ツールの活用方法について学ぶ。	
<b>② 指導力の修得・向上のための研修等</b>	
研修名: 問題解決力向上研修	連携企業等: 株式会社ウィルシード
期間: 令和4年9月7日(水)～9月8日(木)	対象: 担任教員1名
内容: 組織視点を持ち、解決すべき問題を考える。自分の成果だけでなく、組織の成果を出す視点を学ぶ。	
研修名: キャリアデザインセミナー	連携企業等: 株式会社ウィルシード
期間: 令和4年9月12日(月)～9月13日(火)	対象: 担任教員1名
内容: 今後の自分と社会の可能性を想像し教員という仕事や学校に対するエンゲージメントを高める。自己の視野を拡大する。	
研修名: マネージメントの原理、原則、ケースワーク研修	連携企業等: 株式会社リクルートマネジメントソリューションズ
期間: 令和4年10月12日(水)～10月14日(金)	対象: 担任教員1名
内容: マネジメントの原理原則の体系的に習得し、職場でのマネジメントレベルを向上させる。	
研修名: 巻き込み力向上研修	連携企業等: 株式会社ウィルシード
期間: 令和4年10月11日(火)～10月12日(水)	対象: 担任教員2名
内容: 複数の生徒、関係者と学校創りや、仕事を進めていくために必要な考え方と手法を学ぶ。	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
<b>(1) 学校関係者評価の基本方針</b>	
学校関係者として、業界の企業様や卒業生・地域団体住民・高校関係者等と共に、学校関係者評価委員会を設置し、当該専門分野における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営の改善の参考とする。学校関係者評価は、「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。また、評価結果は学校のホームページで公表する。	
<b>(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</b>	
<b>ガイドラインの評価項目</b>	<b>学校が設定する評価項目</b>
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	-
※(10)及び(11)については任意記載。	
<b>(3) 学校関係者評価結果の活用状況</b>	
就職率・進路決定率においては良い結果を残すことができているが、関係者より資格・検定取得率、合格率の向上や、更なる実習先の確保、授業の質向上などの改善点があるのご意見を頂いた。意見を踏まえ、新たに導入したスワイプビデオを活用した動作解析ツールを教材として使用できるか検討を始めた。また資格取得の際の学習ツールとしてのスマートフォンアプリの導入を検討している。	

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
真下 雄貴	株式会社ビルネット 営業本部	令和4年4月1日～令和5年3月31日	その他校長が必要と認める者
柏木 千明	株式会社ルネサンス ライカム24フィットネスチーフ	令和4年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
岡田 真希	飛鳥未来さずな高等学校 沖縄キャンパス主幹教諭	令和4年4月1日～令和5年3月31日	教育に関し知見を有する者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <https://www.sanko.ac.jp/disclosure/okinawa-sports/docs/kankeisya.pdf>  
公表時期: 令和4年7月26日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に則って情報提供を実施することで、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげる。また、入学希望者やその保護者に対し、進路選択にあたっての有用な情報を提供すると共に、一人一人の能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習、就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標および計画
(2) 各学科等の教育	学科概要、カリキュラム、シラバス、客観的な指標の算出方法、卒業要件、目指すべき人材像、取得可能資格、就職実績
(3) 教職員	教員数、組織、専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習実技への取り組み
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6) 学生の生活支援	生活上の諸問題への対応
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.sanko.ac.jp/disclosure/okinawa-sports/docs/kankeisya.pdf>  
公表時期: 令和4年7月26日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツトレーナ科) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
		<input type="radio"/>	機能解剖学Ⅰ	身体運動の基礎となる骨・筋・関節またそれに関連するものについて、その名称・位置・機能について学ぶ。	1年・前期	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
		<input type="radio"/>	機能解剖学Ⅱ	身体運動の基礎となる骨・筋・関節またそれに関連するものについて、その名称・位置・機能について学ぶ。	1年・後期	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
		<input type="radio"/>	身体運動の基礎科学Ⅰ	スポーツ科学の基礎的領域のうち、スポーツ生理学とスポーツバイオメカニクスについて学習する。	1年・前期	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
		<input type="radio"/>	身体運動の基礎科学Ⅱ	スポーツ科学の基礎的領域のうち、スポーツ生理学とスポーツバイオメカニクスについて学習する。	1年・後期	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
		<input type="radio"/>	スポーツ栄養学Ⅰ	運動指導に必要な栄養学の基礎を学び、食生活の改善ができるよう理解する。	1年・前期	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
		<input type="radio"/>	スポーツ栄養学Ⅱ	運動指導に必要な栄養学の基礎を学び、食生活の改善ができるよう理解する。	1年・後期	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
	<input type="radio"/>		トレーニング理論Ⅰ	対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を習得させる。	1年・前期	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
	<input type="radio"/>		トレーニング理論Ⅱ	対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を習得させる。	1年・後期	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
	<input type="radio"/>		トレーニング実践と指導Ⅰ	マシントレーニング、フリーウエイトトレーニングにおける適切なデモンストレーション技能を習得し、指導テクニックを身につける。	1年・前期	30	1			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
	<input type="radio"/>		トレーニング実践と指導Ⅱ	マシントレーニング、フリーウエイトトレーニングにおける適切なデモンストレーション技能を習得し、指導テクニックを身につける。	1年・後期	30	1			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
	<input type="radio"/>		トレーニング理論Ⅲ	JATI認定トレーニング指導者専門科目に必要な知識を身につける。	2年・前期	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	



25			○	未来デザインプログラムⅡ	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体现する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する。	1年・後期	15	1	○				○		○			
26			○	インターンシップ実習特論	トレーナーの仕事や役割を理解し、今後始まる実習に向け必要な知識・技術・心得を修得する。	1年・前期	30	2	○				○			○		
27			○	健康づくり運動の実際	国の施策を理解したうえで、運動プログラムの作成に必要な知識を身につける。	2年・前期	30	2	○				○				○	
28			○	動作分析とエクササイズ処方Ⅰ	動作の評価からトレーニングの選択指導方法を身につける。	2年・前期	30	2	○				○			○		
29			○	動作分析とエクササイズ処方Ⅱ	動作の評価からトレーニングの選択指導方法を身につける。	2年・後期	30	2	○				○			○		
30			○	トレーニングの測定と評価	トレーニング指導者が実施するパフォーマンステストの種類と意味について理解し、フィードバックに必要なデータ処理についても実践を交えて学ぶ。	2年・後期	30	2	○				○				○	
31			○	ピラティス理論	ピラティスという運動療法を通して、実際の現場で即戦力として活躍できる人材となるための基礎知識の習得を目指す。	2年・前期	30	2	○				○				○	
32	○			ピラティス実践	ピラティスという運動療法を通して、実際の現場で即戦力として活躍できる人材となるための実践的な指導力を身につける。	2年・後期	30	1					○	○			○	
33			○	運動指導実践	健康運動実践指導者取得にあたり必須となる実技試験の内容を学び、専門的知識と指導技術を高める。	2年・前期	30	1					○	○				○
34			○	運動指導特論Ⅰ	健康運動実践指導者取得にあたり必須となる筆記試験の内容を学び、専門的知識を高める。	2年・前期	30	2	○				○					○
35			○	運動指導特論Ⅱ	健康運動実践指導者取得にあたり必須となる筆記試験の内容を学び、専門的知識を高める。	2年・後期	30	2	○				○					○
36			○	トレーニング特論Ⅰ	JATI-ATI合格に向けた試験対策を重点化し、出題頻度の高い分野の学習と模擬問題を解き基礎学力を高める。	2年・前期	30	2	○				○					○
37			○	トレーニング特論Ⅱ	JATI-ATI合格に向けた試験対策を重点化し、出題頻度の高い分野の学習と模擬問題を解き基礎学力を高める。	2年・後期	30	2	○				○					○

38			○	未来デザインプログラムⅢ	学校や社会でおこる「不都合な現実」の乗り越え方を学ぶ。	2年・前期	15	1	○			○		○				
39			○	スポーツテーピング実践Ⅱ	各部位の外傷・障害に対するテーピングの理論と巻き方を学習する。	2年・前期	30	1				○	○					○
40			○	コアコンディショニング指導実践	健康教育に関わる者として、コアコンディショニングの概念および手法を用いたコンディショニング指導方法を習得する。	2年・後期	30	1				○	○					○
41			○	パーソナルトレーニング実践	パーソナルトレーナーとしての専門知識、トレーニング理論、ストレッチ、カウンセリングなど指導できる事を目標とする。	2年・通年	60	2				○	○					○
42			○	ボディメイクトレーニング実践	自身のカラダを変える、“ボディメイク”に関するスキル・知識を習得し、自身がなりたいカラダになることおよび、その素晴らしさを伝えることができるようになる。	2年・通年	60	2				○	○					○
43			○	ボディリラクゼーション実践	1年次に学習した解剖学をはじめとした「身体に関する知識」や「サービス業の知識」を活かし、実際のお客様に提供できるレベルの施術技術やコミュニケーションの取り方を学習する。	2年・通年	60	2				○	○					○
44			○	シニアフィットネス指導実践	高齢者人口増加に伴う、健康・予防サービスの重要性を知る。高齢者の身体機能や特徴を理解し運動指導をできるようになる。	2年・通年	60	2				○	○					○
45			○	キャリア教育Ⅰ	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採用試験に臨ませる。	1年・前期	15	1	○				○					○
46			○	キャリア教育Ⅱ	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採用試験に臨ませる。	1年・後期	15	1	○				○					○
47			○	キャリア教育Ⅲ	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採用試験に臨ませる。	2年・前期	15	1	○				○					○
48			○	キャリア教育Ⅳ	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採用試験に臨ませる。	2年・後期	15	1	○				○					○
49			○	インターンシップ実習Ⅰ	多岐に渡るスポーツトレーナーの仕事を、「見て、知り、理解をすること」および、トレーナーとしての業務の一部を「実践してみること」を主なねらいとし、キャリアプランを創造する。	1年・前期	96	3				○		○	○			
50			○	サービスラーニング演習Ⅰ	イベント運営の一員として参加者へ喜んでもらうこと・楽しんでもらうことを体感し「ささえるスポーツ」の楽しさを知り、社会的活動を通して社会人として必要な資質・能力を高めることができる。	1年・後期	15	1	○					○	○			

51			○	総合演習Ⅰ	スポーツ業界が専門学校に求める『専門性』『コミュニケーション』『ビジネス力』『イノベーション(創造する)力』を個々が総合的に身につける。	1年・前期	30	2		○	○	○					
52			○	総合演習Ⅱ	スポーツ業界が専門学校に求める『専門性』『コミュニケーション』『ビジネス力』『イノベーション(創造する)力』を個々が総合的に身につける	1年・後期	30	2		○	○	○					
53			○	インターンシップ実習Ⅱ	多岐に渡るスポーツトレーナーの仕事の中で、各分野に特化した内容および、「授業で得た知識、技術を実践すること」を主なねらいとし、実際にトレーナーとしてのスキルを磨いていく。	2年・前期	96	3		○	○	○					
54			○	サービスラーニング演習Ⅱ	ボランティア・メンバーとイベント主催者との「かけはし」となる存在を目指す。	2年・後期	15	1		○		○	○				
55			○	総合演習Ⅲ	運動指導施設では指導以外の業務でも活躍が求められる為、自ら運動施設を運営する実習を通して実際のスポーツ現場で行われている企画・準備・運営方法を習得する。また、ICTリテラシーを高め、ICTを活用した配信方法を習得する。	2年・前期	30	2		○	○	○					
56			○	総合演習Ⅳ	運動指導施設では指導以外の業務でも活躍が求められる為、自ら運動施設を運営する実習を通して実際のスポーツ現場で行われている企画・準備・運営方法を習得する。また、ICTリテラシーを高め、ICTを活用した配信方法を習得する。	2年・後期	30	2		○	○	○					
合計							56	科目	92 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 本校に修業年限以上在学し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認定を行う。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 原則として教育課程に定められている順序で履修する		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。